



教育

おおらか さわやか きわやかな人を育む大崎の教育

問 教育委員会 ☎476-1111(401)

◆中学校統合に向けて3中学校PTAがミニバレーボール大会で交流を実施

7月6日(土)、大崎中学校体育館で大崎中学校PTA主催の『学級対抗ミニバレーボール大会』が開催されました。これは、来年4月の統合に向けた大崎中学校PTAの呼びかけに、大崎第一中学校PTAと菱田中学校PTAが応じて実現したものです。

決勝戦は、大崎中学校3年1組PTAと菱田中学校PTAで行われ、熱戦の末、菱田中学校PTAが優勝しました。



その後、懇親会を通して、夜遅くまで来年度に向けた交流が行われました。

3中学校のPTA会長は、「今後もこうした機会を作っていきたい。」と話していました。

まびの窓おしの庭

子どもを不幸にする方法は

NO.19

大崎第一中学校 校長 今村 克行

学生時代にツバメの子育てを研究したことがある。ツバメは、日本に渡ってきた後、ひと夏に2回それぞれ数個の卵を産み、子育てを行う。そして、親鳥はせっせと雛に餌を運び、雛の成長とともにその頻度を増す。

ところがである。彼らは、雛が成長し巣立ち前になると、急に餌やりの回数を減らす。すると、雛は仕方なく、転がり出るように巣を飛び出していく。これが巣立ちである。

つまり、巣立ちとは、輝ける未来に羽ばたくといったカッコいいものではなく、餌を減らされたことで体重を減らし、飛ぶことのできる体型にしてもらい、腹が減って減ってしようがなく巣を飛び降りていくことなのである。

実際に、巣が壊れてしまったツバメの雛を何羽か預かって育てたことがある。すると、どうしても餌の与えすぎになり、親ツバメと同じ大きさになっても巣立っていかなかった。そのとき、これは、かえってかわいそうなことであると気づいた。

私には、人の中学校卒業は、ツバメの巣立ちの時期と重なって見える。

けれども、人では食事(餌)を減らすわけにはいけないので、中学生までの時期に、『精神的な飢え』を経験させることが必要になる。

いつまでも、生徒の考えどおりに事が進んだり、いろいろな物が何もかも望みどおりに手に入るようでは、『巣立ち』は望めない。自立に向けた適度な『突き放し』が必要となる。

思想家ルソーは次のような名言を残している。

『子どもを不幸にする一番確実な方法は、いつでも、何でも手に入れられるようにしてやることである。』